

## 第468回4月23日開催

### 出席委員（50音順・敬称略）

朝野 富三	荒巻 裕
大村 英昭	木下 明美
倉光 弘己	黒田 勇
櫻井 美幸	森 輝彦

第468回番組審議会で「メディア規制法案」についての問題点やメディア側の対応などについて、審議会の時間の大半を費やして話し合われました。各委員の主な意見は次の通りです。

#### 櫻井委員

取材や表現への萎縮効果が非常に大きいことが心配だ。メディアだけの問題ではなく、国民の知る権利が侵される危険性が高いと言える。一方でメディアの規制を望む市民の声も強いので、市民側の立場に立ってアピールしてゆくことが重要だと思う。

#### 朝野委員

報道の自由、知る権利が戦後の重大なターニングポイントに来ている。メディアとは一体誰のためのものなのかという議論が希薄だったために、規制の動きを招いたのではないかと。マスコミ界全体としても相互批判をしながら自律機能を発揮することが大切だ。

#### 木下委員

市民は自分たちを守ってくれるのは、官ではなくメディアだと分かっているけど、メディアを信頼し切れない部分があるのも事実だと思う。メディア側も、自制・自律しながら、本当に分かりやすい言葉で市民に訴えて行けば、信頼を取り戻すことができるのではないかと。

#### 黒田委員

メディア側もタカをくくっていたので、付け入るすきを与えてしまったのではないかと。メディアの自律も、視聴者や読者の支えがあって初めてできるものである。メディア全体として、市民に説明責任を果たす制度をきちんと作り、議論をする機会を保障する事が大切だ。

#### 倉光委員

メディア側の対応が遅れたことと戦略的な視点が欠けていたことが大きな問題だ。内部告発の美学を萎縮させないためにも、公権力の悪事を暴き出すという、マスコミがこれまで果たしてきた役割や実績を市民にもっと強くアピールすべきだと思う。

#### 荒巻委員

メディア側が、聞く人見る人に対して何を掲げ、何を訴えようとしているのか、いわゆる理念にかかわる問題だと思う。市民の信頼や共感を得るためには、これまでとは違う市民の立場に立った新しい仕掛けを真剣に考える時期ではないか。

#### 大村副委員長

凶悪な少年犯罪を誘発する有害環境をメディアが作っているという意見が背景にあるが、統計では少年による凶悪犯罪の件数そのものは、年々大幅な減少傾向にある。メディア有害論の根拠は乏しいので、より本質的な問題を議論すべきだ。

#### 森委員長

社会の公器であるメディアに対して、言論規制や言論統制につながるようなことをすることは、いかなる場合でも許されるべきものではない。規制を招かないためにも、メディア側の自浄機能をどれだけ発揮できるかが大きく問われている。